

特別支援教育学習指導案

指導者 野口 慶子

日時 平成29年11月18日(土) 第3校時(13:15~14:05)

年組 中学校 特別支援学級 第2学年3組4名(女子4名)

場所 中学校第2学年3組教室

単元 修学旅行に向けて～自分の研究テーマを決めて、クラスで旅行計画を立てよう～

単元について

本学級は中等度の知的障害をもつ特別支援学級である。学校生活の全般において4名とも興味関心が高いが、言語理解が低いことや、自分のこだわりなどがあるため、他者と折り合いをつけることや問題を解決する時に硬直状態になり時間がかかり、やりたいことができなくなることがある。1年時に課題解決の旅(タスク・トリップ)を経験し安全・時間・課題の優先順位を理解して旅行を実施し、自分のこだわりを折り合いをつけて、日程に合わせて行動し指導者とともに課題を解決できたという成功体験をもっている。また2年時では探求の旅(プレ・リサーチツアー)を経験し自ら発見した自分の気になる場所を現地で写真にとること、その土地のことについてインタビューを行い、帰ってきてから絵を使ってまとめて研究発表する取り組みを経験することを通して、自分の力で調べたという意識も育ってきている。

本単元は3年生のSMART修学旅行(シノノメ・ミッション・アクション・リサーチ・ツアー)へ向けて、自分で目標が明確な研究を考え、体験や見学、インタビュー等を通して研究テーマを探求する旅行計画の立案に取り組む。自分の興味のある情報から、自ら課題を発見し、探求する方法を考える中で主体的に学ぶ意欲を育むことができると考える。またグループで活動を行うため、他者の興味のあることを聞きながら話し合いをすることで、研究テーマを豊かにし、グループ4人の興味が相互に重なりながら探求できる一地域を自分たちで決めることを通して、多様性を認め、協働して問題解決に取り組む姿勢を育むことができると考える。

指導にあたっては、指定されている四地域で自分の興味があることを発見して地図にまとめたものを仲間に伝える場面を設定する。そして、それを聞いた仲間からの「意見」も取り入れて研究テーマを深め、言葉にして共有する。そこから、グループ4人の研究のための一つのコースを話し合いで決める。さらに決定されたコースで旅行を実施するための課題を客観的にとらえて解決していく場面を設定する。

指導目標

1. 自分の興味のあることを選び「知りたい、やりたい」ことを説明することができるようにする。
2. 仲間の話を聞いて、「自分もやってみたい」を考え「理由」を説明することができるようにする。
3. 4人の研究のための一コースを決め、それぞれの目標達成のための課題解決に取り組むことができるようにする。

指導計画 (全12時間)

第一次	修学旅行の概要説明	1時間
第二次	四地域について「知りたい・やりたい発見マップ」作り	4時間
第三次	各地域プレゼンを聞いて「自分もやってみたい理由」を交流する	3時間(本時2/3)
第四次	一地域へ決定のための話し合い	1時間
第五次	自分の研究テーマと探求方法の決定	1時間
第六次	行程計画の作成・行き方調べ(時間)	2時間

本時の目標

- ・自分の行きたい場所の研究テーマ・見所について、仲間に伝わるように説明できる。
- ・仲間の研究テーマを聞いて「自分もやってみたい」ことを考え「理由」を説明できる。

本時に関わる、生徒の実態と個別の目標、支援

生徒	本單元に関わる実態	個別の目標	目標達成のための支援
E	語彙が増えてきて、言葉の意味を理解して発言する場面が多くなってきている。 人の話を聞くことは量が多くなると難しい。	言葉を正しく使って説明することができる。 仲間の話を聞いて「自分もやってみたい」ものを選び自分なりに感じた言葉を発表できる。	発表原稿の準備をする。 プレゼン記録用ワークシートで記憶の整理、支援をする。 発表の方法を掲示する。
F	自分の意見をはっきりと主張できるが、緊張すると声が小さくなることがある。 人の話の意味を聞き取ることができる。	言葉を正しく使って最後まで適正な声量で説明することができる。 仲間の話を聞いて「自分もやってみたい」ものを選びその理由を発表できる。	発表原稿を事前に自分で準備させる。 プレゼン記録用ワークシートにメモができるように言葉がけをする。
G	伝えたいという意欲がある。表現が二語文のため、意味を言い換えて聞き返すと、固まってしまうことがある。 人の話の意味を聞きとるのが難しい。	はっきりとした声で説明することができる。 仲間の話を聞いて「自分もやってみたい」ものを選び自分なりに感じた言葉を発表できる。	発表原稿の準備をする。 プレゼン記録用ワークシートで記憶の整理を支援する。 発表の方法を掲示する。
H	自分の意見をはっきりと主張できる。人の話の意味を聞き取ることができる。 順番などに対してこだわりが強く、自分の気持ちの調整が難しい。	自分の気持ちを調整し、言葉を正しく使って伝えることができる。 仲間の話を聞いて「自分もやってみたい」ものを選びその理由を発表できる。	授業の流れに見通しをもたせる。こだわりがでたときには、解決策を本人やクラスに投げかけ相談する。

学びを豊かにするための手立て

前時までに生徒が個々に観光ガイド雑誌から、自分で興味のある写真の絵を描き、ワードを抜き出しマップに貼り付けながらまとめることで、その土地での「知りたい・やりたい」を探求した。本時は、仲間の「知りたい・やりたい」を聞いて「自分もやりたい」を考え、その「理由」を発表する場面を設定する。したがって、一人だけの興味ではなく新たに意見を付加する場面設定にしていることが、第一の手立てである。また、授業者は4人が発言を交流する際に、生徒と対話しながら生徒個々の思考を言葉で意味づけし介入することが、第二の手立てである。

学習の展開

	学習活動 (□) と評価 (◆)	指導上の留意点 (・) と支援 (■)
導入 4分	□本時の学習について、目標・流れを確認する。 前時までに「知りたい・やりたい発見マップ」と各自発表原稿を準備する。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標・ながれを提示する。 ・司会はその週の日直が行う。書記は教師がすることを伝える。 ・「知りたい・やりたい発見マップ」を掲示しておく。
展開 40分	□プレゼンテーション 司会の進行で、説明する。 発表者（4人）の話を聞く。 ◆自分の「知りたい・やりたい」ことを理解し相手に伝わるように説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼン記録ワークシートを配布し記入のしかたを説明する。 ■司会マニュアルの準備。 ■プレゼン記録用ワークシートへの記録の個別支援。
	□発表を聞いて記入したワークシートの中から、「自分も行きたい」を一つ決め、その理由を考える。 □進行にしたがい、挙手をして前にシールをはりに行く。「自分もいきたい理由」を説明する。 ◆仲間の説明を聞いて「自分も行きたい理由」を発表できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼン記録用掲示物それを拡大した記録用を掲示する。 ・進行は指導者が行う。 ・生徒の発言を板書しながら、生徒の思考を整理し生徒の言葉を意味づける。 ■「自分も行きたい理由」のキーワードやポイントを板書する。
まとめ 6分	□本時の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の発表交流の中で、生徒からの意欲が引き出せる言葉がけを行う。次時にすることの確認をする。

準備物

知りたい・やりたい発見マップ，司会マニュアル，指示棒，記録用ワークシート手元用・掲示用，板書用短冊・付箋，セロテープ，シール，発表方法掲示物

座席表

